

情報処理演習	医療情報処理演習
--------	----------

[演習] 第1学年 後期 必修 1単位

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

《担当者名》二瓶裕之（薬）

【概要】

「情報処理演習」では、臨床検査研究分野をはじめとした様々な分野における問題を解決するツールとしてコンピュータを活用できる力を修得する。具体的には、文書作成、データ処理（表計算）、プレゼンテーション作成およびインターネットやクラウドの活用を問題解決のための枠組みとして学ぶ。そのうえで、グループ討議（SGD）など協働で問題を解決することを体験することで、医療人として必須となるコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の修得も目指す。

【学習目標】

- 臨床検査技師に必要となるコンピュータとインターネットの活用方法を説明できる。
- レポートや論文などの定型文書の作成方法を説明できる。
- コンピュータを使ったプレゼンテーションの方法を説明できる。
- データの集計方法や視覚化の方法を説明できる。
- ネットワーク社会におけるモラルや著作権に配慮したインターネットの利用と活用方法を説明できる。
- SGDにおいてはクラウドを活用しながらメンバー相互が協働して課題を解決し、その結果をまとめて発表することができる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	文書作成技法	・ 文書における見出しの構成と見出しについて説明できる。 ・ 見出し構成と見出しを持つ文書を作成できる。（知識・技能） ・ レポートを指定の書式で設定できる。 【演習】 PCローカルのアプリケーションを利用して、指定の書式でレポートを作成する。	二瓶裕之
2	文書作成技法	・ テキストの表示形式を設定できる。 ・ 文書にオブジェクトを挿入できる。 【演習】 PCローカルのアプリケーションを利用して、指定の書式でレポートを作成する。	二瓶裕之
3	プレゼンテーション技法	・ プレゼンテーションを行うために必要な要素を列挙できる。 ・ Smart Art（概念図）の利用方法を列挙できる 【演習】 PCローカルのアプリケーションを利用して、スライドを作成する。	二瓶裕之
4	プレゼンテーション技法	・ 目的に応じて適切なプレゼンテーションを構成できる。 ・ 目的、場所、相手に応じた、わかりやすい資料を作成できる。 ・ Smart Art（概念図）を利用して発表内容を表現できる。 ・ 原稿の内容に沿ったスライドを作成できる。 【演習】 指定された原稿の内容を理解して、原稿の内容を概念図などにより表現しながら、スライドを作成する。	二瓶裕之

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
5	データ処理、データ分析、プレゼンテーション技法	・クラウド型のフォームを使ったアンケート調査ができる。 ・スプレッドシートのフィルタリング機能を使ったデータの抽出方法を列挙できる。 ・スプレッドシートのピボットテーブル機能を使ったデータの集計方法を列挙できる。 【SGD】（5～7回） 10名程度のグループで、与えられた課題に関わるアンケート調査を行い、その結果を踏まえて、多面的な視点をもって討議をして課題に対する最適な対応策を見つけ出す	二瓶裕之
6	データ処理、データ分析、プレゼンテーション技法	・スプレッドシートでグラフを作る方法を列挙できる。 ・課題に関わるアンケート調査ができる 【SGD】（5～7回）	二瓶裕之
7	データ処理、データ分析、プレゼンテーション技法	・課題に関わる討議の結果をグループでまとめることができる。 【SGD】（5～7回）	二瓶裕之
8	情報検索、プレゼンテーション技法	・インターネットを使った情報検索ができる ・インターネットから得た情報を収集できる ・課題に関わるアンケート調査ができる 【SGD】（8～10回） 10名程度のグループで「社会で起きている問題や課題」に関わるアンケート調査とインターネット検索を行い、その結果を踏まえて、問題や課題に対してエビデンスに基づいた討議をして最適な対応策を見つけ出す	二瓶裕之
9	情報検索、プレゼンテーション技法	・インターネットから得た情報を使ってエビデンスに基づいた討議ができる 【SGD】（8～10回）	二瓶裕之
10	情報検索、プレゼンテーション技法	・クラウドを活用しながら課題に関わる討議の結果をグループでまとめることができる。 【SGD】（8～10回）	二瓶裕之
11	データ処理、データ分析、情報検索、プレゼンテーション技法	・インターネットから得た情報を使って課題発見ができる。 ・課題に関わるアンケート調査ができる 【PBL】（11～14回） 10名程度のグループで、まず、統計ダッシュボードなどの統計データを分析することで健康や医療における課題や問題を見つけ出す。見出した課題に関わるアンケート調査とインターネット検索を行い、その結果を踏まえて問題や課題に対してエビデンスに基づいて討議する。最後に、医療人としての自らの将来像と関連付けながら、今後、自分たちがどのようにしていけばよいのかをまとめる	二瓶裕之

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
12	データ処理、データ分析、情報検索、プレゼンテーション技法	・インターネットから得た情報を使ってエビデンスに基づいた討議ができる 【PBL】(11～14回)	二瓶裕之
13	データ処理、データ分析、情報検索、プレゼンテーション技法	・クラウドを活用しながら課題発見・解決型の協働学修の結果をグループでまとめることができる。 【PBL】(11～14回)	二瓶裕之
14	データ処理、データ分析、情報検索、プレゼンテーション技法	・クラウドを活用しながら課題発見・解決型の協働学修の結果をグループでまとめることができる。 ・グループでまとめた結果を発表できる。 【PBL】(11～14回)	二瓶裕之
15	まとめ	・情報処理演習で学んだことをプレゼンテーションにまとめることができる	二瓶裕之

【評価方法】

授業参加態度（SGDの回には討議の参加態度）30％と毎回(15回)の授業で作成する課題の評価を70％で評価する。

【備考】

教科書：二瓶裕之・西牧可織著「北海道医療大学 医療系学部生のための情報リテラシー」丸善 2019年

参考書：北海道医療大学MediaDepoシステムにおいて教科書の内容をビデオ化した映像を配信しているので予習・復習に活用してください
<https://depo.hoku-iryo-u.ac.jp/>

電子シラバスシステムをベースにした学修eポートフォリオを利用して学修のPDCAサイクルを進めてください
<http://milkywaypast.hoku-iryo-u.ac.jp/syllabus/>

【学習の準備】

・学教科書で該当する章を事前に読んで内容を理解しておくこと、また、北海道医療大学MediaDopoシステムには該当する章の事前学習用ビデオがあるので予習において活用すること（80分）。

・情報処理室やCALL教室、もしくは、自分で所有しているパソコンを利用して事前学修の項目を確認したり、授業で作成した課題を再度作成するなどの事後学習（復習）を行うこと（80分）。

・SGDやPBLでは、事前に具体的な調査資料を配布するので、個々で調べて授業に臨むこと(80分)。授業終了後は、グループ討議の結果を自分なりに振り返り、授業中に作成したプロダクトを再度作成するなどの事後学修（復習）を行うこと(80分)。

【ディプロマポリシーとの関連性】

（DP6）臨床検査学領域における様々な問題や研究課題に対し、解決に向けた情報の適切な分析、科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけている。